

もっと語りたくなる国語の授業づくり

～「読むこと」の領域における「問い合わせ」の設定と読みの交流を通して～

つかむ

追究する

まとめると

児童の実態

- 叙述に注目することはできるものの、読み取りが浅く、表面的な児童がいる。
- 自分の考えを表現することを躊躇する児童がいる。

教師の願い

- 読み取ったことを語り合うことを通して、叙述に即して文章を解釈することの楽しさや充実感を感じるとともに、考えの広がりや深まりに対する実感をもってほしい。

特別研修員 国語 木村 智津子 (小学校教諭)

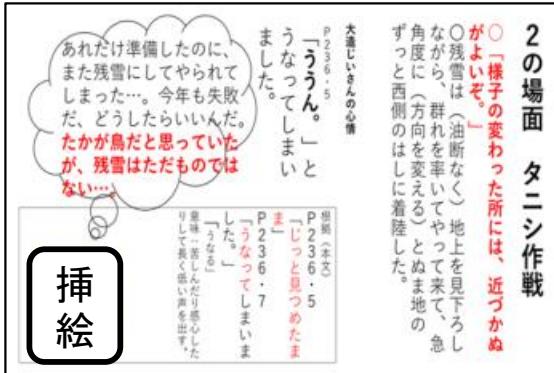
- 実践事例 読むこと (1) エ・カ
単元名 登場人物の心情の変化に着目して読み、物語のみりよくを伝え合おう
教材名 「大造じいさんとガン」 (第5学年)

言語活動 「スライドセッション」で「推しの人物・場面・表現」について語り合おう。

- 「いいなと思った場面や登場人物の言動」「登場人物の言動で確かめたいこと・分かりたいこと」という観点で初発の感想を書く。
- 児童一人一人が単元の学習に対する目標を設定し、目的意識をもつ。

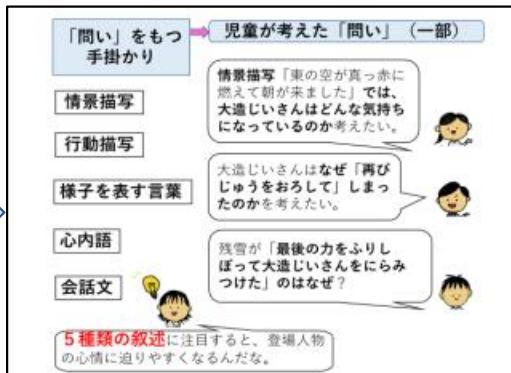
手立て① 学級全体での読み取りを土台とした、一人一人の「問い合わせ」の設定

物語前半の場面の読み取り



前半の場面を学級全体で考えを読み取ったワークシートの一例

物語後半の場面での「問い合わせ」の設定



後半の場面で一人一人が設定した「問い合わせ」の例

「大造じいさんはなぜじゅうをおろしてしまったのか」を考えることで、大造じいさんの心情の変化を深く読み取れそうだな。

手立て② 児童の追究状況に応じた自由に「語り合う」場面と、全体で「語り合う」場面の設定

自由なメンバー・人数での「語り合い」を通して、安心感や自信をもつ。



【後半の場面「大造じいさんはなぜじゅうをおろしたのか」の「問い合わせ」の交流】

- S1: 「残雪の目には…仲間の姿があるだけでした」を根拠にして考えたいんだけど…。
S2: 私も同じだよ。仲間思いの残雪を殺そうとする自分を卑怯に感じたんじゃないかな。
S1: そうだよね。「お前みたいなえらぶつを…」のところからも、卑怯なやり方はしたくないと思っていることが分かるよね。撃ったらかりゆうどとして情けないと思ったのかな。

学級全体での「中間発表会」を通して、読みの正確さや質の高まりを目指す。

問い合わせ
「大造じいさんはなぜじゅうをおろしてしまったのか」

- S1: 「ひきょうなやりかたはしたかないと4の場面にある。ハヤブサと戦おうとしている残雪をこの時に撃つてしまうのはひきょうだと考えたのではないか。
S2: ガンである残雪よりもとても強いハヤブサから仲間を守ろうとしている姿に心を打たれたから、大造じいさんはじゅうをおろしたのだと思う。
S3: 「心を打たれる」を辞書で調べたら、「感動する、深く心を動かされる」とあるよ。
T: 大造じいさんの残雪への気持ちはどう変わったかな?
S4: 「いまいましい」⇒「たかが鳥」⇒「感嘆」⇒「焦り」⇒「鳥なのにすごいやつ=尊敬」へと変わったと思う。

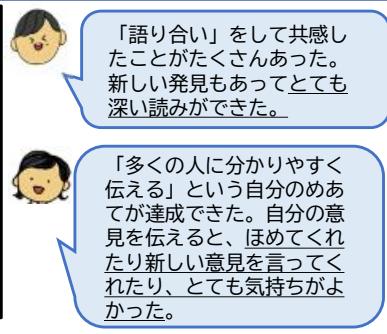
学級全体での「スライドセッション」を通して、成果を実感する。

私の「推し」は「大造じいさん」です！

私はこう読んだ！「推し」の理由！

感嘆の声をもらしたり心を打たれてると言うことはそれだけ残雪のことを尊敬していたり残雪の良いところを見つけられると言う優しさが大造じいさんにはあると思いました。大造じいさんの愛などを見通せる残雪もすごいけど、それを作っている大造じいさんもすごいし、その残雪の大きさをたくさん見つけて商業化で作る大造じいさんもすごいと思いました。

児童が作成したスライドの例



【成果と課題】

<成果>

- 児童一人一人が「問い合わせ」を設定し、自由に交流しながら「問い合わせ」を共有したことによって児童の知的好奇心が喚起され意欲的に取り組む姿が見られた。
- 学級全体で「語り合う」場面では、自信や達成感を感じながら、自ら読みを深めることができた。いろいろな語り合いができる、続きを読むやったりしたくなるという感想もあり、読みを語り合うことの楽しさや有用性を実感することができた。

<課題>

- 学習の進め方や追究内容を児童に委ねる場面と、「正確で質の高い読み」をするための一斉指導の場面のより効果的なバランスの取り方を検討ていきたい。

目指す児童像：自分の考えを友達と語り合い、考え方を広げたり深めたりすることを楽しむ児童